

# 子どもと女性の健康相談室

98



ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授

黒田 優佳子氏

ここ10年で不妊専門の医療機関が増加し、不妊治療は急速に普及しました。不妊治療に用いる技術を生殖補助医療といいますが、現

女性側の問題」と考えられてきましたが、今では不妊の約半数が男性側の「精子の問題」があり、男性不妊が意外と多いということが

しかしその一方で、精子に関しては真偽のはっきりとしない不確実な情報が世間に溢れています。私は「ヒト精子」の研究を専攻し形成過程におけるDNAのコピーミスにより発生した「新生突然変異」が背景にあります。新生突然変異は、親から受け継いだ遺伝子変

# 意外と多い男性不妊

在では約14人に1人が生殖補助医療で生まれ、夫婦4組に1組は不妊に悩んでいます。不妊治療は身近な医療になっていきます。一昔前には「不妊は

広く知られるようになって40年弱になります。が、日々の診療をする中で、長い治療歴を持つ夫婦でも精子に関する正確な知識と情報量が極めて少ないことを痛感します。

頭微授精などの高度な生殖補助医療を受けても、なかなか妊娠できない夫婦の夫を検査すると、高い割合で隠れ精子異常が見つかります。「不妊かもしれない」と思われたら、男性も積極的に専門性の高い医療機関を受診され、早い時点で精子精密検査を受けていただき、精子を専門に研究している医師に相談されることをお勧めします。

## 精子から見た不妊症

男性不妊の約90%は、精子の機能や形態の異常が原因で、精子「運動精子」「良好精子」